しかはま自然観察会

のらえもん

2020年度

No. 8

2020. 9. 6

『　人も　自然も　みんな友だち　』

第８回活動　稲刈り、田んぼ遊び

コロナ禍のため、中止。

８月上旬に、宅間さんから電話がかかってきました。
宅間「長梅雨で、収穫が２週間ぐらい遅れますが、大丈夫ですか？」
古高「今年は、中止にしようと思っています。」
宅間「はい、わかりました。」
古高「新米の販売は、どうしますか？」
宅間「やっていただけると、ありがたいのですが・・・。」
古高「わかりました。１１月７日を予定しています。」
宅間「了解です。よろしくお願いします。」

新米販売に協力しながら、今までの田植えや稲刈りをふり返る・大地の恵みであり命の源であるお米を頂く、このことを共有したいと思いました。

コロナ禍の中、一時「米が不足するのではないか？」というニュースが流れました。その不安は解消されましたが、マスク不足が続きました。マスクは家庭で手作りされるようになり、また食料ではないのでがまんすることができました。

米は日本人にとって毎日の食料です。それが「不足」したらどうなるでしょうか。マスクの比ではないはずです。パニック・暴動が起きるかもしれません。

「緊急に、輸入すればいいじゃないか」と、思われるかもしれません。世界中で発生しているコロナですから、どこも自国の食料確保に精一杯なはずです。

日本の食料自給率は、カロリーベース（生産された食料の重さをカロリーで計算）で４割を切り、主要先進国の中で最下位です。冷害や豪雨で農作物がダメになれば、輸入にたよるしかありません。コロナの感染症対策で貿易がストップするかもしれません。つまり、お金がいくらあっても、誰も売ってくれなくなるのです。

人は、命の源泉である食料によって生き長らえています。食料が十分に確保されて始めて、平穏な日常生活を送ることができるのです。食料の１００％自給は国の根幹であり、それを可能にする農業を始めとする漁協・牧畜・林業などのいわゆる第一次産業を持続させていくことが重要なのです。他の産業は、第一次産業により生み出されたものを、加工して消費しているのだということを忘れてはいけません。

苦労して開いた農地を、放棄地にさせる施策は許されないはずです。

宅間農園とのらえもんがつながる理由は、そんなところにあると思うのです。

稲刈り体験活動の歩み

回数	稲刈り年月日	もう一つの体験活動	参加者
１	２０１０年（平成２２年） ９月１１日	稲刈り後は、神社の境内でゆっくりしました。	６８
２	２０１１年（平成２３年） ９月１７日	ヤクルト工場見学 新米４８０kg購入	４５
３	２０１２年（平成２４年） ９月１５日	我孫子市鳥の博物館 新米３０８，２kg購入	４７
４	２０１３年（平成２５年） ９月２１日	あすなろの里でいもほり体験 新米３１０kg購入	６０
５	２０１４年（平成２６年） ９月１４日	ＪＡＸＡ見学 新米６７７，８kg購入	４３
６	２０１５年（平成２７年） ９月１３日	鬼怒川の大洪水で中止	中止
７	２０１６年（平成２８年） ９月１１日	茨城県自然博物館で化石探し 新米４４７，６kg購入	４５
８	２０１７年（平成２９年） ９月１０日	あすなろの里でうどん作り体験 新米６００kg購入	４６
９	２０１８年（平成３０年） ９月　９日	稲刈り時間４０分！ 新米７３７，４kg購入 キッコウマンしょうゆ工場見学	６２
１０	２０１９年（令和元年） ９月　８日	台風１５号の接近で蒸し暑かった 稲刈り時間４０分！ 新米５１７，４kg購入 キリンビール取手工場見学	４５
１１	２０２０年（令和２年） ９月　６日	コロナ禍のため中止 新米５０８，４kg購入	